

世田谷区立深沢中学校施設整備計画基本設計（案）について

（付議の要旨）

世田谷区立深沢中学校の一部校舎の増改築およびリノベーション施設整備計画に係る基本設計（案）がまとまったので、その概要を報告する。

1 計画の経緯と特色

本計画は、一部の老朽化した校舎の改築、その他校舎に長寿命化対策を施すことで、改築校と同水準の教育環境を整備するリノベーション手法を採用することとなった。また、文部科学省の学校施設老朽化対策先導事業（平成25年度）の選定を受けており、国の支援のもと、老朽化対策の具体的な検討を深めている。さらに、環境配慮、省エネ対策およびユニバーサルデザイン対応などを行っていく。

2 基本設計概要

（1）基本方針

多様な教育に対応し、あたたかみのある学校づくり
環境にやさしい学校づくり
地域とともに生徒を育む学校づくり
安全・安心な学校づくり

（2）建築概要

敷地概要

所在地 世田谷区新町1丁目26番29号
敷地面積 14,860 m²

建物概要

構造・階数 鉄筋コンクリート造、鉄骨造 地上3階建

主要室構成

普通教室（12）、ワークスペース（3）、特別支援教室（2）、特別教室（理科室（2）、家庭科室（2）、音楽室（2）、技術室（2）、多目的室、図書室等）、体育館、格技室、給食諸室、管理諸室、防災倉庫等

建築面積 / 建ぺい率 約 4,452 m² / 30.0%

延床面積 / 容積率 約 9,162 m² / 61.6%

最高の高さ 地盤面 + 15.95m

案内図・配置図・平面図・立面図 別紙のとおり

3 施設の特徴

（1）配置計画

一番古い既存の東校舎を改築し（改築校舎）、不足分の面積を体育館脇に増築する（増築棟）。そのほかの棟はリノベーションによるフルスケルトン改修を行う（リノベーション校舎：西側校舎・南側校舎）。改築校舎には主に普通教室や給食室を収容する。校舎をユニバーサルデザイン対応とするため、改築校舎にエレベータ設置、改築校舎と西側校舎の間にスロープ設置、改築校舎と体育館棟を渡り廊下で接続、西側校舎からプー

ルへのスロープ設置を行う。

配置を大きく変えないことで、現状のグラウンドを確保するとともに、周囲の環境を変化させないよう配慮する。

(2) 平面計画

学年のまとまりに配慮し、普通教室は改築校舎の2～3階南側を中心に配置する。自然採光と自然通風による良好な室内環境を確保する。

特別教室は、教科ごとのまとまりに配慮し、主に西側校舎・南側校舎の1～2階にまとめて配置する。

特別支援学級は南側校舎1階に配置し、落ち着いた環境を確保する。

管理諸室は昇降口及び校庭を見渡すことのできる2階に配置する。

体育館横に校舎を増築し、地域学校会議室や和室など独立性の高い諸室を集約する。

また、体育館に隣接の増築となるため、体育館の室内環境の向上に配慮する。

(3) 動線計画

主要な出入口は敷地東側の正門とする。

生徒用出入口は中庭に面して配置し、一般出入口と区分する。

体育館3階アリーナと校舎棟とを渡り廊下で接続し、ユニバーサルデザイン対応とする。

給食用食材の搬入は、正門と区分し生徒の動線と分離する。

(4) 外構計画

敷地周囲の樹木は極力残す計画とする。

既存にある中庭・テニスコートを再整備する。

校庭の砂埃に配慮した校庭舗装仕上げ、および防球対応を行う。

(5) 防災計画

地域の防災拠点として防災倉庫や災害用マンホールトイレ、井戸を設置する。

また、既存校舎や体育館の耐震性(基準の1.25倍以上)や耐久性を維持・向上させるため、必要に応じた補強・補修を行う。

(6) 省エネルギー及び環境対策

リノベーション手法の採用による効果として、解体規模縮小や建物躯体建設に伴う環境負荷の低減によるCO2削減を図ることができる。

また、外壁断熱や複層ガラスなど採用した省エネ対策、太陽光発電パネル設置や雨水貯留槽による中水利用等、自然エネルギーを利用した環境配慮対策を講じる。

4 概算工事費

約26.8億円 (区単価及び「平成26年度用標準建物予算単価(H25.6東京都)」の変動率による現時点の概算額。)

5 工事工程

平成26年度	実施設計、仮設校舎設置工事
平成27・28年度	一部既存校舎解体、増改築工事、リノベーション工事
平成29年度	新校舎供用開始、仮設校舎撤去工事、校庭整備工事

6 今後のスケジュール

平成26年6月10日	教育委員会報告
平成26年6月13日	文教常任委員会報告
平成26年7月	住民説明会